

## 会 議 録

会 議 名	令和3年度第1回野田市まち・ひと・しごと創生専門員会議
議題及び議題 毎の公開又は 非公開の別	1 野田市まち・ひと・しごと創生総合戦略及び地方創生応援税制の概要について（公開） 2 地方創生応援税制に係る地域再生計画の効果検証について（公開） 3 野田市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る令和2年度実績における重要業績評価指標（KPI）の効果検証について（公開） 4 次期「野田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定について（公開） 5 その他（公開）
日 時	令和3年7月30日（火）午前10時から11時15分まで
場 所	市役所低層棟4階 職員控室
出席者氏名	議 長 内山 久雄  委 員 伊佐 智 五味 良仁 櫻井 正則 高須賀 晴子 箱森 弥生  事務局 生嶋 浩幸（企画財政部長） 齋藤 剛（企画調整課長） 池田 文彦（企画調整課長補佐） 池岡 貴志（企画調整課副主幹（兼）企画係長） 石川 幸一（企画調整課主任主事）  関係課 中村 正則（みどりと水のまちづくり課長） 戸邊 卓哉（魅力推進課長） 山中 巖（農政課長補佐） 野見山 亮（農政課主任主事）
欠席委員氏名	西尾 健太郎
傍 聴 者	0名
議 事	1 開会 企画調整課長補佐 令和3年7月30日午前10時、開会を宣言し、会議の公開について、個人情報等の不開示情報を取り扱うことがないため、原則公開とすること及び傍聴を3名を限度に認めることを説明した。また、会議の途中における傍聴者の入室について了承を得た。あわせて、本日は傍聴希望者がいないことを報告した。 副市長が公務のため欠席していることから、企画財政部長に挨拶を求める。

## 2 企画財政部長挨拶

<挨拶>

## 3 委員紹介

企画調整課長補佐 委嘱後初めての会議開催であることから、委員の紹介を行った。また、野田市まち・ひと・しごと創生専門委員設置規則第5条第2項の規定により、会議の議長は市長が指名することとなっていることから、市長が内山委員を議長に指名していることを報告した。

## 4 事務局紹介

企画調整課長補佐 事務局及び関係課の紹介を行った。  
議事進行を議長に依頼する。

## 5 議事

### (1) 野田市まち・ひと・しごと創生総合戦略及び地方創生応援税制の概要について

議長 それでは、次第に沿って本日の議事を進めさせていただく。具体的な進め方については、「事務局や担当課からの説明」、「委員による質疑」、そして検証が必要なものについては「事業の検証」という流れで行っていく。議題1の「野田市まち・ひと・しごと創生総合戦略及び地方創生応援税制の概要について」、事務局から説明をお願いします。

#### <事務局説明>

- ・野田市まち・ひと・しごと創生総合戦略について、策定の経緯及び計画期間を2年間延長していること等を説明
- ・地方創生応援税制について、地方創生応援税制の概要及び野田市での取組状況として、特例措置認定事業及び令和2年度の寄附実績等を説明

議長 ただ今事務局から説明があったが、質問等ある方はいらっしゃるか。

#### <質問なし>

議長 この議題は概要説明であり、検証の必要はないため次の議題に移らせていただく。

### (2) 地方創生応援税制に係る地域再生計画の効果検証について

議長 それでは、議題2の「地方創生応援税制に係る地域再生計画の効果検証について」に移る。初めに、「生物多様性をキーワードとする野田市の魅力発信事業」について、魅力推進課から説明をお願いします。

#### <魅力推進課説明>

- ・「生物多様性をキーワードとする野田市の魅力発信事業」について、事業

の概要及び目的等を説明

- ・令和2年度の魅力発信事業について、新たに23件の応募があったが、新型コロナウイルス感染症の影響により新規事業としては実施できず、継続事業である「市内草花広報」のみ実施したことを説明
- ・コウノトリを野田市に定住させるため、クラウドファンディングを利用した人工巣塔を建設する新たな取組を行い、市内外の多くの方々から目標金額を上回る支援をいただいたこと等を説明
- ・本事業のKPIは人口の社会増を目標としており、令和2年度は、目標値510人のところ実績値が581人と大幅なプラスとなったこと等を説明
- ・近年の野田市の人口動態について、社会動態については平成28年からプラスで推移しているが、自然動態については減少が続いていること等を説明
- ・本事業の今後について、社会増という実績もあることから、令和3年度も継続して野田市の魅力発信事業を実施しており、今後も野田市の生物多様性・自然再生への取組と、それに伴い「住みやすいまち」、「子育てしやすいまち」、「安全安心に暮らせるまち」として市内外に向けて効果的にアピールしていくこと等を説明

議長 ただ今の説明について、質問等ある方はいらっしゃるか。

議長 KPIについては、当初から社会増ということで国に認可されているという認識でよろしいか。

企画財政部長 お見込みのとおり、KPIについては当初から社会増で計画の策定を行っている。

議長 説明の中で「子育てしやすいまち」とあったが、自然動態が減少しているということは、子育てしにくいということにならないか。

企画財政部長 議長のおっしゃるとおり、子育てしやすければ出生数が多くなるというのが通常のお考えであるが、実際のところ、出生数を増やすためには流山市のように若い世代の転入が大きな要因になると考えている。地理的な条件で見れば、東京に直接行ける場合、仕事に通いやすい、子供が大きくなったときに私立の学校に通いやすい等、そういった面での子育てのしやすさがある。当然野田市で同じことができるかということ、物理的な面で難しいところがあるが、そういった中で野田市に目を向けてもらうために、自然豊かな中で子育てができる、そういったところをしっかりとアピールしたいと考えている。また、医療費等の子育てに関する各種支援事業については、近隣市と比較しても遜色ない取組をしているため、そこをどうアピールするかが大きな課題と考えている。

櫻井委員 社会動態が581人の増加ということで、外国人も増えており、転入超過は良いことだと思うが、この中の年齢構成の内訳はどうなっているのか。

企画財政部長 4月から3月という年度単位での集計ではないが、年齢層別で申し上げると、転入者の割合が大きいのが23歳から39歳で、転入者全体の46%ほどの割合となっている。逆に、転出者の割合が大きいのが30歳から49歳で、転出者全体の53%ほどの割合となっている。具体的にアンケート等を行っているわけではないが、年齢的に見て、就職や結婚後の移住というの大きいのではないかと、そして、これは転入にも転出にも当てはまることではないかと思う。そのため、その辺りの年齢層に着目することで、より効果的な施策が行えるのではないかと考えている。

外国人については、令和3年1月1日現在で、国別に申し上げると中国の方が一番多く、次いでフィリピン、ベトナムの順で多くなっている。以前は韓国の方も多かったが、コロナ禍等の影響によりかなり減っているような状況である。特殊要因としては4番目にパキスタンの方が多く、中古車のオークション会場関連の仕事の方が多いのではないかと考えている。

議長 説明の中でコウノトリの人工巣塔を建設するとの話があったが、コウノトリは自ら巣を作ることはできないのか。

みどりと水のまちづくり課長 コウノトリは松の木の上などの枝がない高い場所に巣を作ることが多いが、電柱の上や鉄塔に巣を作ってしまうという事例も散見されるため、人工巣塔を建設しているところである。現在江川地区に1基建っているが、営巣には至っていない。ここ1、2年で木間ヶ瀬地区にも多くの個体の飛来が確認されていることから、そちらにも1基人工巣塔を建設する方向で作業を進めている。

議長 ほかに質問等ある方はいらっしゃるか。

<質問なし>

議長 質問がないようなので、事業の評価に移りたいと思う。この事業が地方創生応援税制に係る地域再生計画のKPIの目標値を達成するのに有効であったかどうか、私は有効であったと思うが、有効でなかったと思う方は挙手していただきたい。

<挙手なし>

議長 挙手がないようなので、「生物多様性をキーワードとする野田市の魅力発信事業」の評価については、KPIの達成について有効であったとの意見で一致しているため、この評価を野田市まち・ひと・しごと創生専門委員の評価としたいと思う。

議長 それでは、次の事業「農産物ブランド化推進事業」について、農政課から説明をお願いします。

<農政課説明>

- ・「農産物ブランド化推進事業」について、事業の概要及び目的等を説明
- ・KPIについて、指標の黒酢米の売上げが、目標値の事業開始前が5億1508万8千円、令和2年度の値が6億800万円となっており、実績値の事業開始前が4億9824万円、令和2年度の実績値が6億4250万8千円となっていることを説明
- ・事業の効果について、平成21年度に260haで始まった黒酢米栽培が、令和2年度には512haとなり、市内の水田の約半分を占めていること及び黒酢米の農協の買取価格も当初から一貫して1俵あたり1,000円程度一般米より高く買い取られており、農家所得の向上に一定の効果があると思われること等を説明
- ・事業の今後について、ブランド化の課題としてやみくもに地域ブランドとうたって宣伝するだけではブランドとして広く認知されることは難しく、例えば定番化やプレミア化といった目指すべき方向性を定め、それに見合った品質と数量の確保が重要になると考えていること及び黒酢米は農協や各米農家の売り込み努力により、農協以外での取引においても一般米より高値で取引されていることから、一般米より少しプレミア感のあるお米として評価を確立していき、行事等でのPRや売り込みを引き続き実施していくこと等を説明

議長 ただ今の説明について、質問等ある方はいらっしゃるか。

櫻井委員 黒酢米については、農薬と化学肥料に代わる、両方の機能を兼ね備えた農法という認識でよろしいか。

農政課長補佐 標準的な一般米については、千葉県から農薬を何種類以下に抑えなさいということが決められているが、その農薬を半分以下にしていたら、その代わりに黒酢を使っていたらいい。黒酢には殺虫効果はないが、苗に元気を与える効果がある。千葉県には「ちばエコ認証」という認証制度があるが、そちらを取得していただいた方については、黒酢米として認定している。

櫻井委員 SDGsの観点から、すばらしい取組であると思うが、気になったのは、売上げが増加したのは作付面積が増加しているから当然のことで、農家さんの効率や所得の向上についてはどうなっているのか。正に持続可能という観点から今後十分な検証をするのが重要ではないかと思う。また、ブランド化については、現在健康志向が非常に高まっているため、その辺りをどのようにアピールしていくか、小売、流通といかにタイアップしていくかが課題になってくるのではないかと思う。

議長 農政課では農家所得が上がったか調査はしていないのか。

農政課長補佐 農家は個人事業主のため、所得を調査するのが難しいというのが現状であるが、先ほど申し上げたとおり、農協での一般米の買取価格

は令和2年度で一俵当たり13,100円だが、黒酢米は1,000円高い14,100円となっており、農家所得の向上につながっているのではないかと思う。

議長 黒酢米及び一般米が何俵売れたかは把握しているのか。

農政課長補佐 農協に出している物については把握しているが、全ての農家が農協に出しているわけではないため、全体としては把握できていない。

伊佐委員 ブランド化推進事業を始めるに当たって、野田市で有名な枝豆ではなく、黒酢米を選んだのには何か理由があるのか。

農政課長補佐 枝豆については、既に十分ブランド化が達成されているという認識でいる。まず、平成10年代に、有人ヘリによる農薬の空中散布をやめるようにとの国等からの達しがあり、有人ヘリで農薬をまくことをやめたという経緯が前提にある。それでは害虫を駆除するにはどうしたらよいのかという話になり、平成20年に試しに黒酢の散布をやってもらえないう御意見があったため、試行してみたところ、農薬を使用しなくても使用したところと米の品質が変わらないという結果となったことから、これをブランド化していこうというのが最初のスタートとなっている。

企画財政部長 野田市は農用地の面積としては田んぼの割合が大きいため、黒酢を使って農薬を減らすと生物が戻ってくるのではないかということで、黒酢米には自然再生、環境保全という側面がある。そういった部分を前面に出すことで、野田市は環境が良くて住みやすい、その先には、かえるや蛇といったものを餌とする、コウノトリも住めるまちを目指していこうと、ブランド化にはそういった側面もあるため、黒酢米だけに視点を定めることのないように考えている。

議長 田んぼの水質や土質が改善しているか調査はしているのか。

農政課長補佐 水質や土質ではないが、黒酢散布を始めた後から、毎年何地点か生き物の増減の調査をしている。結果としては減ってはいないが増えなくてもおらず、正直なところ横ばいというのが現状である。今後は毎年ではなく隔年などになるが、調査を継続していく予定である。

議長 黒酢米のPRや売り込みにはどの程度力を入れているのか。

農政課長補佐 令和元年度までは産業祭などの市主催のイベントや、柏レイソルの野田ホームタウンデーで、2合袋に黒酢米のシールを貼って抽選で配布するなどしてPRを行っていた。令和2年度は新型コロナウイルスの影響でイベント等が中止になり、黒酢米配布といったPRはできていないが、今後再開されるようであれば配布を行いたい。また、現在黒酢米の販売は

農産物直売所のゆめあぐり野田で行っているほか、農協でも希望者に販売しているが、市内のスーパーで販売しているところは少ないのが現状である。そのため、農協と協力し、市内のスーパーでの販売をお願いすることにより、改めて市民の皆様に黒酢米を知っていただくという取組を実施したいと考えている。

高須賀委員 商工会でもイベントの際に生物多様性に配慮したお米ということで黒酢米を配布したことがある。黒酢を使って育てたということが珍しいと、皆さん大変喜んでおられた。そのため、ただ農協行って買ってきなさいとか、スーパー行って買ってきなさいではなく、野田市では生物多様性に配慮したお米を作っているというような尾ひれを付けてPRしていくのも一つの手ではないかと思う。

議長 配布している黒酢米は、無洗米のように開けてすぐに水を入れて炊けるようなものなのか。

農政課長補佐 精米はしているが、無洗米ではないため研ぐ必要がある。

議長 兵庫県の三田市では、小学生などを集めて田植を行い、収穫したら田植をしてくれた小学生にお米を配るということを行っているが、そこで配っているお米は無洗米が1合ずつ真空パックになっており、開けて釜に入れて水を入れればすぐに炊くことができる。こういうちょっとしたアイデアで便利にすることによって黒酢米の見せ方を工夫できれば、より効果的なPRになるのではないかと思う。

議長 ほかに質問等ある方はいらっしゃるか。

<質問なし>

議長 質問がないようなので、事業の評価に移りたいと思う。この事業が地方創生応援税制に係る地域再生計画のKPIの目標値を達成するのに有効であったかどうか、私は有効であったと思うが、有効でなかったと思う方は挙手していただきたい。

<挙手なし>

議長 挙手がないようなので、「農産物ブランド化推進事業」の評価については、KPIの達成について有効であったとの意見で一致しているため、この評価を野田市まち・ひと・しごと創生専門委員の評価としたいと思う。

(3) 野田市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る令和2年度実績における重要業績評価指標（KPI）の効果検証について

議長 それでは、議題3の「野田市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る

令和2年度実績における重要業績評価指標（KPI）の効果検証について」に移る。事務局から説明をお願いします。

<事務局説明>

- ・野田市まち・ひと・しごと創生総合戦略については、令和元年度に計画期間を2年間延長し、令和3年度が最終目標年度となることから、全ての重要業績評価指標（KPI）について評価検証を行い、令和3年度の目標値以上の成果を達成している事業を○、令和元年度の実績値以上の成果を達成しているが、令和3年度の目標値以上は達成できていない事業を△、令和元年度の実績値を満たしていないものを×とし、3段階で評価したことを説明
- ・91指標のうち約25%に当たる23指標については、既に令和3年度の目標値以上の成果を達成していること、約44%に当たる40指標については、令和3年度の目標値以上の成果は達成できていないが、令和元年度の実績値以上の成果を達成していることから、全体として地方創生に向け順調に推移していること等を説明
- ・各基本目標につき「目標値を達成・順調に推移」した指標と「目標未達成」の指標について、それぞれ1事業ずつ抜粋して説明
- ・目標達成している指標については、更なる目標に向けて取り組んでいくこと、また、目標が未達成の指標については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたものが多くあったが、今後もそのような指標も含め全ての指標において目標値にとらわれず地方創生に向け取組を進めていくこと等を説明

議長 ただ今事務局から説明があったが、質問等ある方はいらっしゃるか。

<質問なし>

議長 議題（3）については、個々の重要業績評価指標（KPI）について、それぞれ検証することは時間の制約上難しいため、議長として総括させていただくがよろしいか。

<異議なしの声>

議長 異議なしのため、議長として総括させていただく。社会情勢が大きく変化していく中で、特に昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の取組については、決して十分な効果があったとは言えないものもあると思うが、本来であれば十分な効果を上げることが予想できるものも多くある。以上のことから、更なる地方創生への取組への期待も含め、全体として一定程度実績を上げていることから、各取組について、令和2年度実績における重要業績評価指標（KPI）達成に有効であったと評価し、野田市まち・ひと・しごと創生専門委員の評価としたいと思う。

（4）次期「野田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定について

議長 それでは、議題4の「次期「野田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定について」に移る。事務局から説明をお願いします。

<事務局説明>

- ・ 現行の野田市まち・ひと・しごと創生総合戦略については、総合計画後期基本計画の策定期間に合わせ計画期間を延長したこと、また、総合計画は地域の実情に応じた目標や施策をまとめるもので、まち・ひと・しごと創生総合戦略と目指すところは同様であることから、総合計画後期基本計画とともに作成する3年間の計画期間とする実施計画に野田市まち・ひと・しごと創生総合戦略を包含することとし、一体的に作成することを説明
- ・ 実施計画について、総合計画の基本目標ごとに定めた施策を具体化するための3年間の計画期間とする短期的な計画であり、この計画に各事業のKPI（重要業績評価指標）を加え、評価を行えるよう指標を記載する予定であることを説明

議長 ただ今事務局から説明があったが、質問等ある方はいらっしゃるか。

<質問なし>

議長 それでは、更なる地方創生に向けて、次期総合戦略の策定をよろしくをお願いします。

(5) その他

議長 それでは、議題5の「その他」に移る。事務局から説明をお願いします。

<事務局説明>

- ・ 今後の会議の予定について、次期「野田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定に伴い会議を開催する予定であり、詳細な日程等は決まり次第改めて連絡すること等を説明

議長 委員の皆様から何か発言はあるか。特にないようであれば、閉会とさせていただきます。

<発言なし>

6 閉会

議長 午後11時15分、閉会を宣言した。